

東京湾から採集された アカメ(スズキ目:アカメ科)

萩原清司*・島村嘉一**

Lates japonicus (Perciformes: Latidae)
collected from the Tokyo Bay

HAGIWARA Kiyoshi*
and SHIMAMURA Yoshikazu**

キーワード: アカメ, アカメ科, 東京湾, 分布
Key words: *Lates japonicus*, Latidae, Tokyo Bay,
distribution

はじめに

アカメ *Lates japonicus* Katayama & Takiは, 1984年に高知県浦戸湾産の標本に基づき記載されたスズキ目アカメ科アカメ属の日本固有の魚類で, 主に四国・九州の太平洋岸にそそぐ大型河川の河口域に生息するが, まれに中部地方太平洋岸から報告されることもあり, 成長すると体長1200mmに達することが知られる (Katayama and Taki, 1984; Iwatsuki *et al.* 1993; Hatooka, 2002)。東京湾からはWeb上で公開 (<http://www.fimosw.com/u/OrangeStyle/6ldekwrhbwdyhr>: 2012年10月現在) の横浜市で釣獲された全長約650mmの個体の1例があるが, この個体は撮影後にリリースされ標本が存在しないことから, これまで標本に基づく記録はない。

2011年11月1日に東京湾からアカメ属魚類と思われる1個体が刺網漁業者によって採集され, 浦安市郷土博物館に持ち込まれた。採集個体は横須賀市自然・人文博物館に移管され, 詳査した結果アカメと同定されたことから, 標本に基づいた本種分布の北限記録として報告する。標本は10%ホルマリンで固定後, 70%エタノール水溶液中で横須賀市博物館魚類資料 (YCM-P) として保存した。

なお本報告にあたり, 標本の提供をいただいた鈴木徳浩氏, 文献収集に協力いただいた相模湾海洋生物研究会の荒尾一樹氏, 近年のアカメ分布に関する情報を

提供いただいた宮崎大学農学部岩槻幸雄教授, 神奈川県立生命の星地球博物館の瀬能 宏博士に感謝の意を表す。

供試標本

YCM-P45138, 1個体, 全長347.7mm, 標準体長279.0mm, 頭長96.8mm, 体高105.6mm, 尾柄高42.2mm, 採集日20111101, 東京湾新木場沖 (35.6N, 139.8E; 第1図), 刺網, 鈴木徳裕 (忠七丸) 採集。



第1図 採集地点図。

記載

体は側偏した紡錘形で, 体高は高い; 頭部は小さく, 背部から吻にかけての背中線は急勾配となる; 口は大きく, 上顎骨後端は眼の後端を超える; 前鰓蓋骨に鋸歯及び4本の棘を有する; 背鰭前方の棘は強く, 第3棘が最も長い; 側線は尾鰭後端に達する; 尾鰭後縁は円い (第2図)。

以下に形質計数・計測値を示す。標本計測値は10%ホルマリン水溶液で固定した時 (第3図) のものである。背鰭7棘-1棘11軟条; 臀鰭3棘8軟条; 胸鰭16軟条; 腹鰭1棘5軟条; 側線鱗数62; 側線上方横列鱗数7; 側線下方横列鱗数10; 鰓耙数2+1+6。以下, 体長に対する比

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台95

** 浦安市郷土博物館

原稿受付 2012年10月2日 横須賀市博物館業績 第664号

率(%)：全長124.6；頭長34.7；体高37.8；背鰭前方長43.0；臀鰭前方長72.1；胸鰭長15.9；背鰭最長棘(背鰭第3棘)長16.6；臀鰭最長棘(臀鰭第3棘)長8.0。以下、頭長に対する比率(%)：吻長22.4；眼径14.7；両眼間隔17.6；上顎長41.8。

生鮮時の体色は、腹部を除く体幹部が銀灰色で、背部では暗い色合いとなる。下顎から腹部にかけては白色。各垂直鰭および腹鰭は暗褐色。胸鰭は透明でやや黄色味を帯びる。虹彩は暗褐色で結膜は赤味を帯びる。

考 察

同属の近縁種 *Lates calcarifer* (Bloch) は、台湾～オーストラリア北部に至るインド-西太平洋の熱帯域に広く分布し、マングローブ域や河川下流～河口域に生息することが知られる(Larson, 1999)。供試標本は、胸鰭軟条数が16本であること、側線鱗数が62であること、鰓耙数が2+1+6(*L. calcarifer*では胸鰭軟条数17~8本、側線鱗数54~57、鰓耙数3+1+8~9)であること(Katayama and Taki, 1984)からアカメ*L. japonicus*と同定された。東京湾奥部から得られた供試個体は本種分布の北限記録となる。

文献(木下, 1989; Iwatsuki *et al.* 1998; Hatooka, 2002)によれば、本種は静岡県以西に分布するが、主な分布地は宮崎県と高知県で、本州中部以東では稀とされている。ところが、2011年には三河湾(碧南海浜水族館・碧南青少年海の科学館編, 2011a, 2011b)や愛知県および静岡県(井本他, 2012)のほか、前述の横浜市での採集例など中部以東の太平洋岸から報告が相次ぎ、供試標本もこの年に採集された。体サイズをみると、横浜市の例では他の2011年に本州中部以東で採集された個体より大型であることから年級群が異なると考えられたが、愛知県や静岡県で採集されたものと供試個体はほぼ同じ体サイズであり(岩槻氏私信)、これらが同時期に分散した稚仔が成長したものである可能性が示唆された。

しかし、近年はネット販売等により観賞魚として本種



第2図 アカメ *Lates japonicus* YCM-P45138 生鮮時。

が流通している状況もあり、人為的な移入による国内外来種である可能性を完全に否定することはできない。今後、東京湾におけるさらなる出現や、隣接する海域で未だ記録のない相模湾における出現、供試個体の遺伝解析の結果などを注視し、本種の分布拡大の要因を明らかにするための情報収集を継続したい。

引用文献

- Hatooka K. 2002. Latidae. In Nakabo T. ed. *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*, English edition I : 679. Tokai University Press, Tokyo.
- 碧南海浜水族館・碧南青少年海の科学館編 2011a. 大発見?!アカメが三河で見つかった. マリンドリーム, (64) : 5.
- 碧南海浜水族館・碧南青少年海の科学館編 2011b. 飼育日記「アカメ矢作川に現る」. マリンドリーム, (66) : 7.
- 井本会美・瀬能 宏・遠藤広光・増田元保・田中文也・岩槻幸雄 2012. ミトコンドリアDNAのD-loop 領域から見た日本産アカメの遺伝的集団構造. 2012年度日本魚類学会年会講演要旨 : 68.
- Iwatsuki Y., Tashiro K. and Hamasaki T. 1993. Distribution and fluctuations in occurrence of the Japanese centropomid fish, *Lates japonicus*. *Japan Journal of Ichthyology*, **40**(3): 327-332.
- Katayama M. and Taki Y. 1984. *Lates japonicus*, a new centropomid fish from Japan. *Japan Journal of Ichthyology*, **30**(4): 361-367.
- 木下 泉 1989. アカメ. 川那部浩哉・水野信彦編・監修 日本の淡水魚: 481-483. 山と溪谷社, 東京.
- Larson H. 1999. Centropomidae. In Carpenter K. E. and Niem V. H. eds. 1999. The living marine resources of the Western Central Pacific. *FAO species identification guide for fishery purposes*, **4**: 2429-2432. FAO Rome.



第3図 アカメ *Lates japonicus* YCM-P45138 固定標本。